

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善策
<p>○生徒一人一人が大切にされ、安心して過ごすことができる学校</p> <p>○凡事徹底～あたりまえのことがあたりまえにできる「良い習慣」が身についた生徒</p> <p>○生徒・保護者・地域との信頼関係を築くため、自らの教師力・指導力を高める努力を惜しまない教師</p>		<p>確かな学力の定着</p> <p>不登校生徒へのきめ細かな支援と規範意識の向上</p> <p>小中連携の推進とさらなる充実を図る。</p>	<p>・ICTの活用、授業改善への教員研修を継続して取り組んでいく。</p> <p>・家庭学習の定着及び定期考査前の取り組みに個人差が見られるため、個別指導の取り組みを強化する。</p> <p>・不登校生徒やその保護者に対して、さらにきめ細かな対応ができるよう、オンライン授業の効果的な導入を推進する。</p> <p>・公民館事業や地域との連携を深められるよう、校内の体制を整備し、連絡調整を進める。</p> <p>・両小学校との教師・児童生徒の連携をさらにすすめ、地域の学校として支えていただけるよう取り組みを推進していく。</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の向上を図る	学期ごとに授業を自己評価するとともに、生徒への「授業アンケート」を行い、生徒にとってわかる授業を構築する。	<p>・本年度は、生徒へのアンケートを2回実施し、教師自らの授業の改善に役立てることができた。</p> <p>・自学ノートの取組みはほぼできています。ただ、取り組みの内容については、継続した指導が必要である。</p> <p>・3学年は9月から、1・2学年は12月から「一人一台端末」を用いた授業に取り組み、補充学習や自主学習にも活用させることができた。さらに積極的な活用を進めていきたい。</p> <p>・市学習定着度調査においては、平均値が「③同程度である」という結果で、家庭学習や定期考査前の取組みに個人差が多きことが浮き彫りとなった。</p>	
	1年間を通して自学ノートの取組みを徹底させる。(内容の充実・提出率95%以上)		
	定期考査前の補充学習・自主学習の取組みを各学年で呼びかけ、充実を図る。		
	市学習定着度調査において、平均値が「②やや上回っている」の達成を目指す。		
長期欠席生徒への支援の充実を図る	担任・教育相談コーディネーターを中心に学校に来ていない生徒には、週に1回以上の家庭訪問を行い、信頼関係を醸成する。	<p>・定期的家庭訪問は実施できている。感染症に対する不安から登校を見合わせる生徒がいたが、オンライン授業等の対応ができた。</p> <p>・中止された公民館の活動もある中、生徒の美術作品の提供等で協力することができた。</p> <p>・全体として長期欠席生徒は数の上では変化がなかった。しかし、オンライン授業をきっかけに回復に向かう生徒がいて、良い兆候である。</p>	
	公民館の活動への参加を促し、校外における支援を進める。		
	SC・SSWと密に情報交換を行い、心理面・福祉面の支援を充実させ、生徒の自立を促進する。		
	「状況の改善が見られた生徒」の割合が60%以上を達成する。		
小中連携を推進する	小中合同のあいさつ運動を2週間に1度実施する。	<p>・あいさつ運動はおおむね実施できた。</p> <p>・小中連携の研修や打ち合わせが感染症防止の観点から実施を見合わせた。教育相談コーディネーターが定期的に小学校の赴き、情報交換を行うことができた。</p> <p>・本年度から小学校在籍の栄養教諭が週に一度中学校勤務となり、食育の充実を図ることができた。</p>	
	教育相談コーディネーターを小学校に定期的に訪問させ、小学校における不登校傾向の児童の支援を行う。		
	授業交流・出前授業を推進し、中プロ全体で9か年を見通した共通理解・共通実践を図る。		
	「小中連携が前年度より進んだ」との評価が80%以上を達成する。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>・休校期間が長く、多くの行事が中止となり心配したが、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていて安心した。</p> <p>・地域行事や公民館事業の実施状況にもよるが、これまで以上に中学生が参加しやすくなるよう、不登校の生徒や保護者の支援につながるよう、PTAとして関わっていきたい。</p> <p>・感染症の対応等のお知らせで学校ホームページの更新回数が増えたのは良かったが、学校での様子を可能な範囲で発信してほしい。</p>			